



南光ミニバス 選手紹介



6年生
マンツーマンの練習
をがんばっています



6年生
ディフェンス練習を
がんばっています



6年生
シュート練習をがん
ばっています



6年生
ゴール下のブロック
をがんばっています



6年生
リバウンド練習をが
んばっています



6年生
ディフェンス練習を
がんばっています



5年生
ディフェンス練習を
がんばっています



5年生
ディフェンスの基礎
をがんばっています



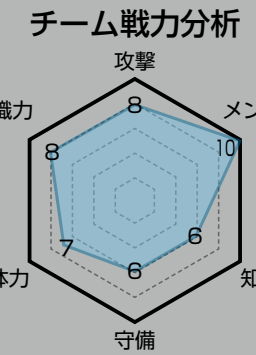
4年生
ディフェンス練習を
がんばっています



4年生
ディフェンス練習を
がんばっています



4年生
ディフェンス練習を
がんばっています



4年生
パス練習をがんばっ
ています



4年生
ドリブル練習をがん
ばっています



3年生
シュート練習をがん
ばっています



初優勝

祝 関東制覇

「努力を惜しまず
努力を自信に」を
合言葉に
関東ミニバス界の
頂点に輝く

第34回関東ブロックスポーツ少年団
競技別交流会(ミニバスケットボール)

館林南光ミニバス

鍛錬と努力が結実

7月26日、東京の駒沢体育館で開催された女子ミニバスケットボール大会の決勝戦。試合終了の合図とともに会場は歓喜にわいた。スコアは61対36。群馬県勢では5年ぶり、館林市史上初となる、優勝に館林南光ミニバスケットボールスポーツ少年団が輝いた瞬間だった。

創部41年目にして悲願の関東制覇。そのときのことを監督の市川昭さんは「今年で監督生活21年。これまで積み重ねてきた、監督としての知識と経験、そして選手たちの努力が実を結んだ瞬間でした。とてもうれしかったです」と語る。

5月に開催した東日本の強

関東制覇への歩み

6月21日	◆関東大会群馬県予選決勝	館林南光	桐生神明	64	37
7月25日	◆関東大会1日目	館林南光	ドリームガールズ(栃木県)	58	14
		館林南光	猿橋(山梨県)	58	46
7月26日	◆関東大会2日目	館林南光	大野(茨城県)	46	41
		館林南光	桜丘(神奈川県)	61	36

強さの秘密に迫る

現在所属選手が14人。少人数ながら、チーム一丸となって目標に向かって邁進し、見事約1800チームの頂点に登りつめた南光ミニバス。高校・社会人と、日本の女子バスケットボール界の名門チームにプレーヤーを輩出し続けるチームに密着した。

豪が集う大会(志木カップ)では、茨城県代表の大野を相手に1ゴール差の46対48で惜敗。悔しさをバネにそれから2か月間、打倒大野と関東制覇を胸に誓い、特訓を重ねた。「一番成長したのはメンタル面。今回の大会も大野とは大接戦。負けていた状況から終盤で逆転し、逃げ切りました」と指揮官は興奮気味に振り返る。

選手と保護者が気持ちを一つに 大会に臨みました

今回の大会は、茨城県代表のライバル大野ミニさんに勝利し、優勝することを目標に選手と保護者が気持ちを一つに臨みました。選手たちが厳しい練習を乗り越えて、今回栄冠を勝ち取ったときは、ほんとうにうれしかったです。保護者一同いつも南光ミニバスから元気と感動をもらっています。試合

中はコートの外から声援を送ることしかできませんが、少しでも気持ちよくプレーしてもらえたらと思っています。試合に勝利することはたいせつですが、事故なく楽しくミニバスができることが一番。ミニバスを通して多くの友達ができるきっかけになればいいなと思います。

南光ミニ保護者代表

堀越幸子さん



Interview



西武エアーズ
大村遥菜

Viewpoint

南光の強さは勝負時に必ず点を獲ってくる

今年から南光と合同で練習をしています。練習はとても厳しいですが、今までに経験したことのない練習で、できなかったプレーができるようになってうれしいです

Viewpoint

西武エアーズ
保護者代表



南光のすごいところは集中力とスタミナ

南光の市川監督のきめこまやかな指導は西武エアーズの選手たちにとってもいい刺激になっているようです。南光に少しでも追いつけるように、切磋琢磨してほしいです



キャプテン
エース

Ririka Horikoshi

堀越梨々夏



Akira Ichikawa

市川 昭

監督

重なり合う
それぞれの思い。



「夏場の練習はちよつときついです」と笑って話す梨々夏さんだが、コートをさつそうと駆け回る表情や様子からは、少しもつらさを感じさせない。「試合中どんなにピンチから強豪チームではなかった。市川監督が就任当初は勝てない日々が続いた。練習試合を申し込んで、相手にならないうと断られてしまうような状況。「根っからの負けず嫌い。悔しくて本を読んだり、本場アメリカから映像を取り寄せたりするなど、戦略や練習法を徹底的に研究しました」と語る。現在も、試合後の選手に関するデータ収集や分析は欠かさない。

南光ミニバスを取材をした8月の下旬。熱気が籠もる館林第2小学校の体育館では、練習終了後にミニゲームが行われた。互いに点を獲りあう激しいゲーム展開。そんな中、一人の選手のプレーが輝きを放っていた。自分より体格のよい相手を鋭いドリブルで翻弄し、スペースを見つけては果敢にゴールに迫る。館林南光ミニバスのキャプテンエース堀越梨々夏さんだ。



市川監督に強いチームに育てあげられるポイントをうかがったところ、「選手たちの能力を最大限、引き出せるような環境をつくること」と言い切る。館林南光ミニバスには、練習法や技術を学ぼうと、近隣チームや、関東中の選手たちが練習の参加を希望してやってくる。取材日には埼玉県人間市のチームがいっしょに汗を流していた。「外部からの刺激が選手を伸ばしてくれる。練習に参加したいと申し入れがあれば受け入れるようにしています。わざわざ来てくれた選手のためにも、指導には手は抜けませんね」と続ける。



な状況でも、選手たちに声をかけて盛り上げて、プレーでチームを引っ張らなければいけない」と語る。ポジションはポイントガード。ボールを前線に運んで攻撃を組み立て、得点を演出。試合中も司令塔としての役割を果たしている。「宿敵大野に勝利し、優勝したときはすごくうれしかったです。自信にもなりました」と堀越さん。監督の市川さんは堀越さんのことを「昨年からレギュラーとして出場しているのに経験豊富。どんな大舞台やピンチの状況でも自分を見失わず、冷静にゲームをつくってくれる」と評価する。館林南光ミニバスは最初か



挑戦は続く。

冬大会2冠の偉業に向けて、